

建設産業常任委員会所管事務調査報告

8月6日から8日にかけて委員6人事務局1人で和歌山県和歌山市の公共施設の民間資金活用の手法についてと、奈良県斑鳩町では下水道事業の普及の取組み及び自然型工法による河川整備についての視察研修に行ってきました。

和歌山市東庁舎は、本庁舎の狭隘の解消による職場環境の改善と業務スペースの拡大、近隣ビルに分散している賃貸事務室の集約と窓口の一元化等の利便性を図るため、官民コラボレーションによるリース方式で建設した。10年間のリース（1,890,000,000円）で契約期間満了後は、市の所有となる。



斑鳩町では、豊かな自然を守り、快適な生活環境をつくるため、平成3年から公共下水道の整備が始まりました。その後下水道工事はどんどん進み、平成17年4月からは、一部の地域では下水道が使用できるようになり、下水道業をよりよく進めていくためにPI（パブリック・インボルブメント）を導入し、平成19年8月現在では、112ヘクタールの地域で公共下水道を利用することができています。

竜田川は、奈良県の北西部に位置し、西の生駒山地と東の矢田丘陵の間を北から南へと流れています。「蘇る万葉の川」をテーマとした、多自然型川づくりが行なわれ、造成した州に植生が発達し水際の多様性が増し生物の住みやすい環境となっている。

